

学校保健

SCHOOL HEALTH

2021. 1 No. **346**

公益財団法人
JSSH 日本学校保健会
JAPAN SOCIETY OF SCHOOL HEALTH

<http://www.hokenkai.or.jp/>



子どもたちの笑顔かがやく健やかな成長を願う 新たな100年に向かって

公益財団法人日本学校保健会 会長 横倉 義武

新年明けましておめでとうございます。

平素より子供たちの健やかな成長を願って活動されておられる皆様に深く感謝を申し上げます。特に昨年は、新型コロナウイルス感染症による全国一斉休校、学校の新しい生活様式に沿った教育活動と、皆様には多大なるご尽力をいただきました。しかし、未だ収束は見えて来ず、引き続き細やかな対応が求められております。よろしくお願いたします。



さて、大正9年に帝国学校衛生会として発足した日本学校保健会は、昨年創立100周年を迎え、去る12月5日に記念式典を挙行政いたしました。

感染症により開催も危ぶまれましたが、参加人数を大幅に減らすなど様々な対策をとり開催する事ができました。これもひとえに日ごろからの皆様のご支援とご協力のおかげと心より感謝を申し上げます。

そして、本会の事業として、本年は『学校保健の課題とその対応』改訂版の完成、学校心臓検診・学校検尿資料の改訂がなされます。また、事業報告会や研修会の形式につきましても、より多くの方に受講していただけるよう工夫して参ります。特に感染症対策については、感染症で欠席する児童生徒等の発生状況を即時に把握できる「学校等欠席者・感染症情報システム」の改修を進め、より多くの自治体に登録していただけるよう普及に努めてまいります。

本年も我が国の学校保健の向上・発展のために積極的に事業を推進してまいります。皆様にはより一層のご活躍を祈念いたしますとともに、今後とも本会へのご支援、ご協力をよろしくお願申し上げます。

主な誌面

健康づくり啓発ポスターコンクール	10	4	11	9	3
特集 日本学校保健会創立100周年記念式典	10	4	11	9	3
令和3年新春座談会	10	4	11	9	3
令和3年新春座談会	10	4	11	9	3

全国健康づくり推進学校表彰校の実践⑤	12	13
岐阜県立岐阜高等学校	12	13
令和2年度全国健康づくり推進学校表彰校一覧	14	13

日本学校保健会 創立100周年記念式典を挙行政いたしました

創立100周年に当たる令和2年12月5日、東京 経団連会館に高円宮妃殿下ならびに萩生田光一文部科学大臣をお迎えして、記念式典が行われました。

(関連2～3ページ)



回覧

校長	教頭	保健主事	養護教諭	栄養士	学校薬剤師	PTA会長	学校医	学校歯科医	学校薬剤師

【お知らせ】「学校保健」は年6回(奇数月)の発行です。学校保健委員会の参考に学校三師の方々へもご回覧ください。



日本学校保健会 創立100周年 記念式典を挙行了たしました

日本学校保健会は令和2年12月5日に経団連会館において、高円宮妃殿下ご臨席のもと、創立100周年記念式典・記念行事を挙行了たしました。

記念式典



高円宮妃殿下



萩生田 光一 文部科学大臣

ご来賓として萩生田光一文部科学大臣、中川俊男日本医師会長、川本強日本学校歯科医会長、山本信夫日本薬剤師会長にご臨席賜り、また日本学校保健会創立100周年記念表彰被表彰者にご出席いただきました。



中川 俊男 日本医師会長



川本 強 日本学校歯科医会長



山本 信夫 日本薬剤師会長

続いて、日本学校保健会創立100周年記念表彰の授賞式が執り行われました。



金井 忠男 埼玉県学校保健会長



東 邦裕 全国学校保健主事会長

中村 道子
全国養護教諭連絡協議会顧問

日本学校保健会の活動にご尽力いただいた94人の方々が受賞されました。心よりお祝い申し上げます。当日は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で出席者数を大幅に減らし、各部門の代表3名のご出席となりました。受賞された皆様におかれましては今後一層のご活躍を祈念いたしますとともに、子どもたちの健康づくりに関わる様々な活動に引き続きご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

記念講演

宇宙飛行士／薬剤耐性対策推進国民啓発会議議長の毛利衛氏よりご講演いただきました。

演題：「宇宙から見た地球圏の
One Health」



新たな100年に向けて

学校保健・学校衛生活動興隆のきっかけは種痘や伝染病予防などの感染症対策とされています。おりしも100周年を迎えた今、まさに新たな感染症の脅威に世界が立たされています。日本学校保健会は全国の子どもたち、教職員の方々に対してバックアップしてまいります。学校保健の100年を創り上げてこられた方々に謝意を表し、引き続き学校保健活動に力を注ぎ、新たな100年に向けて邁進してまいります。

令和3年
新春座談会

学校保健とヘルスリテラシー



コーディネーター
茨城大学教育学部 教授

瀧澤 利行



東京都医師会学校医委員会
副委員長

山田 正興



公益社団法人日本薬剤師会
常務理事

富永 孝治



全国学校保健主事会
理事

森 和子



新潟大学教育学部
准教授

笠巻 純一



公益財団法人日本学校保健会
専務理事

弓倉 整

(敬称略)

瀧澤 明けましておめでとうございます。新型コロナウイルス(Covid-19)の感染が拡大している中での新年を迎えました。今年度はヘルスリテラシーを年間特集として、学校保健や健康教育におけるヘルスリテラシーのあり方を考えてまいりました。この新春座談会では子どもたちのヘルスリテラシーの課題を考えていきたいと思ひます。

まず、最初に実際の学校での子どもたちのヘルスリテラシーの現状を森先生に伺いたひと思ひます。

森 現在、中学校で保健体育を教えています、例えば性に関する指導でも、今は、小学校の保健指導で「体の発育・発達」をしっかりやっているので、中学での保健の授業では、真面目に聞かれています。ですから多くの方々が考えるよりも多くの生徒は真剣に学ぼうとしていますね。性感染症の授業でも3年生もそんなに変な反応はしません。知っている男の子たちが後でお話をするのかもしれないし、その前に教科書とかを見て話をするのかもしれないですけ

ど、特に授業で変な発言をしたり、変な質問をしたり、態度を取ったりということは、あまりないと思ひます。特に、女子には、「リスクを背負うのは女子ですよ」「自分の体は大事にしてほしい」と言っています。興味はすごくあると思ひますけれど、本当に心配な生徒には、養護教諭が話をしてくれます。

瀧澤 山田先生はいかがですか。今の森先生のお話を聞かれて、実際、先生が学校医として診療されたり、あるいは学校でお話しになったりする生徒さんと比べて。

山田 僕は小学校の学校医ですので、小学校5年生の毎年2月に「みつめよう命」という授業をしています。子どもたちは卵子とか精子って言葉は知っていますが、その言葉の意味までは理解していません。例えば「卵子は生まれた時にもっているもので後から作られない。一方「精子は、もう少し立つと男の子のペニスから白い液体が出るようになる。それが

精子で、その時から作られ始める」。このように卵子と精子はつくられる過程が全く違うことを話します。こうした用語をいかにして理解させ、ヘルスリテラシーにつなげるかというのは、学校の先生方は、相当苦労されていると思います。カリキュラムを越えてつなげていくことが体系的にできていないこともあり、子どもたちは戸惑っています。



また、「初経」という言葉が非常に大切で、男女共に覚えておいてほしい。でも、20歳前後の女性にピルを出そうとして、「生理ってどのような意味があるか?」と聞いても、明確に答えられる人は残念ながら多くはいません。女性の生理ということに対してその正しい知識をきちんと整理して、自分の中で理解して、自分で判断するという、リテラシーは非常に大切です。

瀧澤 笠巻先生、ヘルスリテラシーの考え方を広めようとしてきた私たちのような立場から見たときに、お二人のお話をどのように受け取られましたか。

笠巻 性教育におけるヘルスリテラシーの取り扱い方は、きわめて重要な位置づけになるかと思っています。例を挙げますと、最近、我が国における若い世代の梅毒患者数の増加が憂慮されています。厚生労働省においては、近年における梅毒の患者数の増加をホームページで取り上げ、「感染予防」や「検査・治療」に関する基礎的な情報を提供し、感染症制御に向けた啓発活動を推進しているところです。若い世代の梅毒感染は、信頼性が低く不確かな性情報に基づく性行動が影響している可能性が考えられます。梅毒に限らず、性感染症予防のための知識・能力は、学校における保健教育において、十分に学習できる内容と考えます。インターネット環境やSNSを始めとする各種サービスの拡充を視野に、より実践的な教育の推進が必要ではないでしょうか。不十分な理解のまま、大学等に進学した学生へのヘルスリテラシー教育も重要な課題です。私見になりますが、教養教育における健康関連の講義が、「確かな知識」と「適切な判断・行動力」を身につける機会になればと考えております。近年、大学の講義において、ヘルスリテラシーを取り上げる機会が増えてきたように思います。教員等を目指す学生のヘル

スリテラシーの向上も、非常に重要な課題です。教員のヘルスリテラシーが低ければ、児童生徒への教育効果も望めません。専門教育の講義では、これまで以上にヘルスリテラシーを重視した活動を推進する必要があると考えます。

瀧澤 同じような日常生活に生かすという点で、富永先生にお伺いしたいのは、今、セルフメディケーションということで、医薬品の知識を活用しながら、自分で自分の療養生活とか健康生活を考えていくという流れの中にあるんですけども、実際に医薬品教育とよくいわれている中で、本当の意味での医薬品利用のリテラシーは育っているかどうかということは、非常に重要なことだと思うんですけども。

富永 学校における健康教育で学校薬剤師が目指すものは、児童生徒らにヘルスリテラシーを身に付けてもらうために薬物乱用防止教室や「くすり教育」を手伝ったり、講演を行ったりするわけです。けれども、ちょっとマンネリ化しているって話も耳にするんです。講演内容の中身を見ると学校薬剤師が自分本位で、結局、自分の発表会になっている。例えば薬物乱用防止の講演で実際の薬物による健康被害の体験談とか、本当にこの大人は嘘をついていないなって思わせないと、彼らはなかなか受け入れてくれません。私は、学校薬剤師に対し「怖がらせることはしないでくれ」と言っています。薬剤師として専門的な知識をまず与えて、薬物には依存性があり、君たちの将来をだめにするってことを伝えてくれと。そして、断るスキルを身につけ、最終的には危ない物に手を出さないことを理解してもらうようにと伝えています。熊本県では薬物乱用防止講演を行う職種率は学校薬剤師が講師を行う割合が日本の平均の倍ぐらいあるんですよ。どうしてそうなったかという、薬剤師会が県下の学校薬剤師に対して薬物乱用防止教育で学校薬剤師が担う役割を再認識させ、セルフエスティームを育む中で児童生徒らに飽きさせない、クイズを盛り込む、動画や効果音を組み合わせなど委員会で作り上げたものを各学校薬剤師に提供したことから、薬剤師の講演が好評を博し学校の講師依頼率が上がったということです。



森 本校でも今までは警察の方が薬物乱用の講演をしていただきましたが、最近は薬剤師の先生方が講師としてパワーポイント等でいろいろな資料やDVDを用意して、講義をしてくださいます。保健の授業でもやっていますが、もっと詳しい資料などで分かりやすく説明していただきました。その後に感想文をきちんと書きますよ。薬物乱用防止に対して最後は、自分は断る勇気を持ちたいとか、きちんとねらいに合ったものを今の生徒はきちんと書きます。知識としてちゃんと段階を踏んで理解することができるようになってきているように思います。

笠巻 「くすり教育」の導入に伴い、保健教育におけるヘルスリテラシーの取り扱いも大きく変化しているように思います。2008(平成20)年3月の中学校学習指導要領改訂に伴い「医薬品は、正しく使用すること」が保健体育の内容に明示されました。2015(平成27)年に発行された教科書「中学校保健体育」(大日本図書株式会社)では、「保健・医療機関や医薬品の有効利用」の章において、次のような学習課題を提示しています。一つ目は、健康に生きるために、保健・医療機関をどのように利用するとよいか。二つ目は、医薬品の理解を深め、正しく使用するにはどうしたらよいか。というものです。生徒の具体的な活動としては、保健・医療機関の機能を有効利用するためのインターネット等からの情報収集、市販薬の取扱説明書に関する理解、薬剤師等の専門家への相談など、ヘルスリテラシーに関する内容が提示されています。近年におけるアクティブ・ラーニングの推進も相まって、「医薬品」に関するヘルスリテラシーの学習課題が積極的に取り扱われるようになったことが窺えます。セルフメディケーションを実践するための重要な活動といえます。そのような動向を十分に考慮しながら、教員養成におけるヘルスリテラシー教育の内容を検討していくことが重要だと考えています。

森 保護者のリテラシーは、子どもよりも差があると感じます。その人がどう生きてきて、親になって子どもをどう育てているか、リテラシーにしても幅広いと思います。例えば新型コロナウイルスに関しても、すごく意識の高い親もいれば、そうでない親もいます。携帯にしても、ゲー



ムにしても、家庭でのルールが決められて守られている家庭もあれば、子ども任せになってしまっている家庭もある。そうなるとうち止められなくなってしまい、昼夜逆転、朝起きられない、学校に来て居眠りばかりなど学校ではどうしようもできないことにもなってしまいます。

山田 最近感じているのは、保護者の皆さんが専門家に依存し過ぎているかなと。ちょっと指を切っただけのかすり傷でも医療機関を訪れる。少し前までであれば、この傷は医師に見せるべきかどうかは保護者が自分である程度は判断していたと思います。水泳は少し前まで親がプールや海に連れて行って、溺れるような形で教えましたよね。今は1歳になる前にスイミングスクールで指導者に任せる。それから勉強の面でも小学校低学年から、塾に通っている子どもも多くいます。夜9時過ぎに塾帰りの子どもたちがコンビニの前にたむろしている光景を良く目にします。学力だけでなく、人間の生きる力を育てていくためにはどうするかをもう少し伝えていくことが必要だと思います。メディアの報道に踊らされていて、今年のコロナ禍でも同じことが起きているという気がします。

富永 医薬品に関するリテラシーは大人でも個人差があるんですね。ちょうどセルフメディケーションを国が推進し始めた頃に、同時に薬のことは自分で責任をもてという流れの中で「くすり教育」が始まりました。ただ、この「くすり教育」について全国で調査したら、十分な「くすり教育」が行われていないという結果でした。そこで、私自身が押しかけて教頭や養護の先生にお願いして、保健体育の先生に会わせていただいて、『くすり教育』の授業をやらせてくれませんか。お手伝いさせてくれませんか」と申し出たわけです。くすり教育では養護の先生から保健室に相談に訪れた生徒の実例を話してもらって、そして体育教諭が僕に疑問を投げ掛けて答えるというような授業案を作りました。ところが、その授業案を作る段階で、体育の先生の医薬品リテラシーが低かったことが判明しました。例えば「薬は余計に飲んだほうが効くんでしょう」とか「カプセルを外して飲んだほうがいいんですね」とか言われるんですよ。授業を終えて印象的だったのは高校生に今日の授業はどうでしたかって教育委員会の方がインタビューしたんですけど「今日の授業は面白かった」

「専門家から聞いてよかった」って答えてくれました。

瀧澤 笠巻先生、だいぶ教員養成、分が悪いんですけど(笑)。

笠巻 教員によるヘルスリテラシー教育の質の保証が前提となりますが、専門家による支援と保護者による教育のバランスが極めて重要ではないかと考えます。先ほど山田先生が「専門家に依存し過ぎではないか」とおっしゃっていました。これは私も同様に感じるところです。教師は「教育」のまさに専門家であり、保護者は学校に対して、子どもへの教育、あるいは子どもの育成に関して非常に期待する部分が多いのではないかと思います。「専門家への依存」ではなく、学校と家庭、双方が協力することで、児童生徒へのより良い支援が可能になりますし、地域社会を含めてそのような機運の醸成を図ることが重要ではないでしょうか。



昨年は、新型コロナウイルス感染症の関連情報を始め、SNS等でデマを含む多くの情報が拡散した年だったと思います。誤情報、偽情報を見極めるリテラシーを、今の時代に限らず継続的に身につけていく姿勢が大切ですし、そのための教育が必要であると考えます。

近年、ヘルスリテラシー教育に関する研究も、急速な進展を見せています。これは一例ですが、国立情報学研究所が運営する学術情報データベース CiNii Articles の論文検索を用いて、「ヘルスリテラシー 教育」をキーワードに論文タイトルを検索しますと、70件ほど抽出されますが、2015年以降に発表された論文が全体の6割以上という結果です。今、教育・保健・医療の学術分野において注目度が高まっているテーマといえます。今後、学校における効果的なヘルスリテラシー教育を検討するための介入研究の推進が望まれるところです。昨年の8月に日本学術会議から提言「生活習慣病予防のための良好な成育環境・生活習慣の確保に係る基盤づくりと教育の重要性」が示されました。「学協会等と連携した学校における健康教育の実践」によって、ヘルスリテラシーを獲得することの重要性が示唆されています。

瀧澤 弓倉先生、ここまでのお話を聞かれて、今までの先生方のお話の中から、今の状況、学校保健を推進するお立場でどういうふうに理解していただいたでしょうか。

弓倉 私も学校保健の仕事でいろんな所でお話しさせていただきますが、大体ごあいさつの枕ことばとして、いじめ、不登校問題と、ネット、アレルギーがあります。これがほとんどこの15年間で変わらないんですね。つまり、変わらないということは、解決されていないということかと思えます。特に小さなお子さんたちは、保護者の生活をまねて生活を送っていく。そこをある程度補充するところは学校教育だと思うんですけども、やはり保護者の方のリテラシーとか、保護者の方の認識に対してどのように介入していくかというのが、すごく大切なのだらうと思っています。ところが保護者の方に対しては、なかなか学校教育では入り込めないですね。どのような形で保護者の方のヘルスリテラシーを良くしていくのか。今、玉石混交のネット情報の中で、デマ情報やフェイクの情報も飛び交っている中で、正しい情報を得て、保護者の方が自分の生活習慣を変えるというのは、恐らく今回、新型コロナで在宅ワークが増えて、それが大きな社会実験になったかもしれないですね。



新しい要素としては、がん教育が最近始まることによって、がん教育の中でがんという病気に対しての学校で教えることによって、子どもたちに例えば検診とか、そういうことの重要性を学んでいただいて、それを自分の親御さんに子どもから伝えていただくという考え方が教育の要綱に入ったということは、僕は一つの新しいアプローチなのかなと思っています。

瀧澤 恐らく新型コロナ、COVID-19が年明けた段階でもまだ多分、拡大傾向にあるのだらうと思うんですけども、今のように健康課題を脇に置きながら、私たちが日常生活を歩んでいくときに、子どもたち、そしてその保護者にどのようなヘルスリテラシーを身につけさせたいとお考えなのか。先生方、お一人ずつお話を伺い



たいと思います。

森 生活習慣(食事や睡眠、運動)が全部自分をつくっているというのはいつも言っていて、私は保健体育の教諭なので保健をやるときにはいつも「みんなが今、やっていることがすべて、未来のあなたたちをつくっているんだよ」、「今、体を鍛えたり、しっかり食べたり、運動したり、そういうことがあなたの体をつくっているから、それがこの先、健康で長く生きられるためには大事なことから」ということを生徒には伝えています。

あとは、保護者の方には、だんだん中学生は手がかからなくなってくるのですが、目は外さないで子どもの様子に気がついてもらいたいと言っています。多分、学校では見せないことも家で何か見せたりすることもあるかもしれないし、あと生活習慣も見ているので何か気が付いたら、もし学校に伝えてくれるなら教えてもらいたいし、一番それを注意してもらいたいなと思っています。

富永 今、一番気になっているのは、一般用医薬品の乱用です。どこかの公衆トイレに、ある医薬品の空箱が何十箱もあったと報道で見ました。あれは僕たちから見ると、中に入っている成分をそれだけの量飲めば、麻薬とか覚醒剤と同じ作用が出るということが分かります。そのことに気付いたんでしょうね。他の成分も入っているんだから、それは健康被害が出るのは当たり前だし、もちろん薬物と同じように依存性がある。そのことを青少年が好奇心で乱用を経験する前に教えていく必要があります。そこで医薬品の適正使用教育を薬物乱用防止教育につなげていかなければならないと私たちは思っています。薬剤師ですから、日常の業務の中で医薬品の効用、リスク、両方を伝えるわけですよね。中学校の学習指導要領にも薬は正しく使うこと、薬には副作用があることから「くすり教育」は始まっています。まず、そこを通じて教職員やPTAの方々にも広げていくのが大事かと思っています。医薬品使用におけるベネフィットとリスクを理解して、自己責任で薬を使うという時代がそこまで来ています。だからこそメディアリテラシーを身に付けるというのが絶対必要で、特に医薬品に関しては正しい情報を入手して、安全で健康な生活につなげていただきたいと思っています。

山田 先日、がん教育で、小学校の教壇に立ちまし

た。がん教育をやってみて、例えば「30人のクラスの15人が、がんにかかるよ」って話は結構、みんな知っています。でも、「何人、助かるの?」。実は3分の2の人は助かる時代だよ。「がんから身を守るためにどうしたらいいの?」ということについては、例えばがんの原因の中には、感染が原因でがんになることがあります。保健の教科書の中では最初の単元は、感染の単元なんですね。その中で感染のことをふりかえてみる。「感染源のことをみんな覚えてる?感染源のひとつにウイルスがあります。ウイルスにかかって、がんになることがあるんだよ。今、COVID-19、新型コロナウイルスだね」「コロナウイルスの感染はどのようにして広がっていくの?」と聞くと、生徒は唾液やくしゃみで飛沫感染が駄目だというのは理解しています。感染から身を守るためにどうしたらいいのという感受性の話しにつなげます。「インフルエンザのワクチン打った?」「みんな、がんから身を守るために、ワクチンを打って、感染から身を守ることもがんから身を守るのひとつだね」その他にがんを守るためには、きちんとした生活様式とか、生活習慣、先ほど森先生がおっしゃったように、「朝ご飯、きちんと食べてる?」とか、「夜、何時頃寝てる?」、そういった生活習慣をみんなまでチェックすることで、がんを予防できる。がん予防の12条ってあるんですけど、それを一緒に学びました。

実際ががん教育を行って医師としての経験を交えて話すと、「がんの患者さんとどう向き合ったか」などの経験を話すことが予想以上に子どもたちに大きなインパクトを与えました。各学校には薬剤師、歯科医師、学校医という専門家がいるわけですから、この皆さんを外部講師として活用し、健康教育につなげていく。それがヘルスリテラシーを高めて、自分で自分の健康は守るようにしていくことにつながっていくことになると思います。わたしたち学校三師がこれからも連携していくことが大切だと思います。



笠巻 子どものヘルスリテラシーを高めていく上で、重要な視点が二つあると思うんですね。一つ目は、いかにヘルスリテラシーを高めるための教育を展開するかということだと思います。その基盤は平成29年に改訂されました学習指導要領を踏まえた教育の推進です。改訂において、各教科等の目標や内容は、教育課程全体を通して育成を目指す資質能力の三つの柱に基づいて再整理されています。一つ目は「何を理解しているか、何ができるかといった『知識及び技能』の習得」、二つ目は「理解していること、できることをどう使うか」といった、『思考力、判断力、表現力等』の育成」、三つ目は「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」といった『学びに向かう力、人間性等』の涵養」です。この三つの柱は、ヘルスリテラシー教育の目標と重なる部分も多く、今後、体育や保健体育を中心に、各教科等において包括的に推進していくことが求められると考えます。

もう一つの視点というのは、「大人は常に子どものモデルになっている」ことの認識です。子どもが正しい情報にアクセスし、適切に行動できる力を教育することも重要ですが、同時に、誤情報や不適切な情報を大人が発信しない意識を高めていくことも求められると思います。保護者の規範意識も重要な要素であると考えます。大人の取る態度・行動、さらに大きく捉えるならば、大人がつくる社会の有り様は、子どもに影響を与えます。子どものお手本であることを心に留めて行動することが大切ではないでしょうか。

瀧澤 ありがとうございます。最後に弓倉専務、日本

学校保健会として子どもたちのヘルスリテラシーを育てるためにどんな取り組みをしていけばいいか、新年の抱負も含めてお願いしたいと思います。

弓倉 日本学校保健会は、今まで会報でも例えばがん教育を取り上げたり、ネット依存の話ですとか、そういうものを取り上げてきて、こういう活動自体は続けていきたいと思っています。今現在、全国健康づくり推進学校表彰をやっておりますし、メディアリテラシーと子どもの健康調査委員会もやってますし、また、全国健康づくり啓発ポスターコンクールをやってまして、例年は1200~1300件ぐらいの応募が、今年は7305件。ものすごく増えて、それだけ健康に対する子どもたちの認識や関心が高まったのではないかなと思っています。皆さま方が使うための大事な資料というのは、日本学校保健会がこれからも提供していくことが大切だと思いますし、将来的に児童生徒が未来をつくっていくわけですから、より良い社会をつくっていくための働きができるような形で、活用していただければと思っています。

瀧澤 ありがとうございます。まさしくポスターは文化的なヘルスリテラシー。自分で発信していく、そのリテラシーの表れだと思いますね。日本学校保健会がそうした活動を推進していくというのは非常にいい案だとあらためて思いを新たにいたしました。新年早々、大変有意義な座談会をさせていただきました。どうもありがとうございました。



座談会の様子

令和2年度 学校健康づくり啓発ポスターコンクール 受賞作品のお知らせ

日本学校保健会の令和2年度学校健康づくり啓発ポスターコンクールでは、全国から総数 7,305 点に及ぶご応募をいただき、ありがとうございました。本会の学校健康づくり啓発委員会（弘瀬知江子委員長）での審査の結果、各部門の最優秀賞作品と優秀賞作品が決まりました。

各部門の最優秀賞作品は、それぞれ啓発ポスターとして、3月ごろに全国の学校保健会等を通じて各学校へ配布する予定です。来年度の学校での健康づくりに向けて、ぜひ、ご活用ください。

最優秀賞作品

小学生部門（応募数 4,300 点）



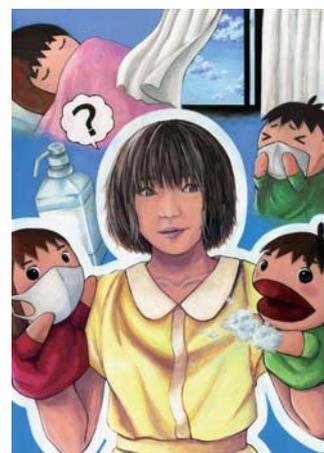
埼玉県川口市立十二月田小学校
3年 阿形 奏佑 さん

中学生部門（応募数 2,688 点）



富山県射水市立新湊南部中学校
3年 浅村 アスミ さん

高校生部門（応募数 317 点）



兵庫県立姫路工業高等学校
2年 藤原 万那花 さん



成長期のからだや下着について
簡単に指導できる「無料DVD」配付中。



視聴時間：約10分

下着教室ツボミスクールで
講師が話している内容をまとめた
「テキストとDVD」を無料提供しています。
ぜひお役立てください。

第3回

申込期間：2020年9月16日～2021年1月15日

テキスト配布総数：12,000部
※なくなり次第、受付を終了とさせていただきます

発送期間：2021年1月下旬～2月上旬ごろ予定



お申し込みはホームページから！

※スマートフォンからもご利用いただけます。 [ツボミスクール](#) 検索

オンラインでツボミスクールを 開催しませんか？



ツボミスクールの
オンライン講座をはじめました。
参加者がいらっしゃる学校や自宅と、講師がいる会社をつなぎ、
成長期の女の子の体や下着についてライブでご説明いたします。
またオンラインの開催は、全国の小中学校で開催が可能で、
人数（20名以上）の制限がありません。ぜひご検討ください。

- コース：小・中学生コース、保護者コース、養護教諭コースなど
- 開催日：平日
- 費用：無料
- 所要時間：30分～60分（各コース）

—— 詳しい内容やお申し込みは、HPをご覧ください。 ——

問い合わせ先

ワコールツボミスクール事務局
Mail：tsubomi@wacoal.co.jp

優秀賞作品



茨城県結城市立結城小学校
2年 藤森 那央 さん



千葉県立船橋夏見特別支援学校
中学部3年 小松崎 綾斗 さん



兵庫県尼崎市立武庫中学校
3年 柴田 芽依 さん



千葉県富津市立富津中学校
1年 平野 萌日 さん



香川県立高松工芸高等学校
1年 釜野 珠波 さん



千葉県立千葉女子高等学校
1年 井上 原芳 さん

学校健康づくり啓発ポスターコンクールの審査を終えて

学校健康づくり啓発委員会 委員
元 全国造形教育連盟 委員長 永関 和雄



今年の学校健康づくり啓発ポスターコンクールは、コロナウイルスの拡大によって全国の学校で休校が続き、様々な行事が中止や延期となる中での実施となりました。どれだけの作品が集まるか心配していましたが、全国の小中学校、高等学校、特別支援学校などから合計で7,305点の応募がありました。これは昨年の1,206点と比べると約6倍という数になります。

昨年までのように「健康診断の大切さ」「熱中症の予防」といった日常の学校生活における健康づくりを呼びかける作品もありましたが、大多数の作品が現在全世界を襲っているコロナウイルスへの対策を題材としたものでした。

「三密を避けよう」「手洗いやうがいしよう」「マスクをしよう」などの呼びかけを具体的な絵とともにポスターとして表現した作品を一枚一枚見ていると年齢や住む地域は違っても全国の学校で一日も早く安全な生活を取り戻したいと願っている子どもたちの声が伝わってくるように感じました。

今年はこれまでになく子どもも大人も健康な生活の大切さについて考えた一年ではないかと思えます。子どもたちが「学校健康づくり啓発ポスター」を作る際、まず何を訴えようかを考え、どのようなコピーでどのような色や形で表現しようかと考えます。描く子どもの年齢や表現方法により作品を完成させるまでの時間は様々ですが、山のように積み上げられた作品を見て、これらの作品完成のために費やされた天文学的ともいえる時間に思いをはせました。この膨大な時間は、子どもたちが「健康」について考え行動した時間だといえると思えます。絵を描くことに集中していたとしても心のどこかで健康な生活のためにどうすべきかを考えていたのではないのでしょうか。

今回選ばれた作品がポスターとなり学校に掲示された時、ポスターを見た多くの人にとっても健康づくりへの意識や行動を見直すメッセージになってくれればと願っています。

全国健康づくり推進学校表彰校の実践⑤

「トータル・パーソン」を目指した健康教育活動 ～高い知性と精神性を生かせる健康教育～

令和元年度最優秀校 岐阜県立岐阜高等学校

1 学校紹介

本校は織田信長ゆかりの岐阜城の南、千年の歴史を誇る鶯飼で有名な清流長良川沿いに立地している。1学年9クラス全校生徒1092名。創立146周年を迎えた、歴史と伝統ある大規模進学校である。「百折不撓」「自強不息」の校訓のもと、「トータル・パーソン」の育成に向けた教育活動を展開している。また、昨年度から、個別のより高度な学習ニーズに応えるため、教育課程を単位制へ改編し、グローバルリーダーの育成はもとより、個別の夢の実現に向けた支援を一層充実させることを目指している。



【岐阜県立岐阜高等学校】

2 学校経営方針と健康づくり

〈学校教育目標〉

- (1)「百折不撓・自強不息」の校訓のもと、不屈でたくましい精神力を持った人材を育成する。
- (2)「文武両道」をモットーとして、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな人材を育成する。
- (3) 勤労を尊び、思いやりと奉仕の心を持って社会に貢献する人材を育成する。

教育目標を達成し、将来目指す人間像は「トータル・パーソン」(知性と精神性を高い次元で融合した人間)である。その資質として、健全な心と体は不可欠であり、生命を大切にする心や態度の醸成、基本的な生活習慣の確立と自己指導能力の育成、個に応じた適時適切な自立支援を掲げ、健康づくりを保健厚生部、生徒指導部をはじめ学校教育活動に位置付けている。

3 特徴的な活動

(1) 高校生のためのがん教育

今後、全国で実施される「がん教育」について、高校1年次の早い時期に学ぶことで、命の大切さと、がん患者への差別や偏見のない社会の実現に貢献できる生徒の育成を目指している。

① 保健体育の授業の活用

1年次の保健の授業で、教諭と養護教諭が連携・協力して、がん教育の必要性・日本人のがんの現状・AYA世代のがん・治療方法・健診などについて学習する。

② 他教科との連携 現代社会の授業の活用

自分たちが興味・関心のある新聞記事からテーマ設定し、ポスターの作成や発表を通して理解を深める授業である。がんについて興味・関心を深めるために養護教諭も授業に加わり、日本のがんの現状を説明する。

③ 講演会

本校では、年2回「図書館講演会」を実施している。そのテーマの一つとして、「白血病と骨髄バンク」と題して、白血病体験者から、闘病生活や骨髄バンクの必要性について学ぶ機会を設けた。

④ 通信や掲示物による教育

文部科学省が提供する「がん教育推進のための教材」を参考にした通信(1号から12号)の発行や、参加型のポスター掲示、図書館に関係図書の紹介コーナーを設け啓発している。



【現代社会のポスター発表】



【壁新聞『がんについて』】

(2) 環境衛生活動**① 生徒保健委員会の換気指導活動**

保健委員は教室の空気調査を行い、その結果を「保健だより」としてクラスに発信し、換気指導活動に役立っている。

② 学校薬剤師からの換気指導

冷暖房使用時、年2回の定期空気検査において、窓を開けることで二酸化炭素濃度が飛躍的に低下していく様子を測定器を用いて示し、換気の必要性を体感する指導を行っている。

③ 養護教諭の換気指導

職員に「授業が終わったら窓を開け、次の授業の先生が閉める」という習慣を徹底し、生徒だけでは補いきれない換気活動への協力を求めている。また、定期検査の結果は保健だよりに掲載し、生徒・職員に周知している。

④ 「太陽の日」有志による校外清掃活動

日頃見守ってくださる地域の方へのお礼の気持ちを込めて、年2回ボランティア清掃活動を行っている。

⑤ 勤労体験学習としての活動と生徒美化委員会の活動

年間15回程度、勤労体験と美化委員会で床磨き清掃活動を行い、校舎を大切にすることを養っている。

⑥ コンタクトレンズのリサイクル活動

HOYA(株)の「アイシティブコプロジェクト」に参加している。コンタクトレンズの空ケースを回収し、再利用された売り上げを全国アイバンク協会へ寄付するというボランティア活動に参加している。



【教室の空気検査】



【ボランティア清掃「太陽の日」】

(3) グローバルリーダー養成事業

本校では「トータル・パーソン」として、将来、国内外で活躍する人材に求められる素養を身に付けるための教育活動「グローバルリーダー養成事業」を展開している。多様な分野の著名人や研究者から職業・学問について講演会や体験型授業を実施するプログラムで、健康・食・医療に関わる講演会等も実施している。

① 「地域医療の現状を知る」(講師：医師)

医師、薬剤師、臨床検査技師、看護師の方から地域医療に従事する専門職の立場として、医療現場での役割や高い専門性が要求されるチーム医療の大切さなどを学ぶプログラムである。

② 「医学・医療研究の進歩と未来」(講師：大学院教授)

筋ジストロフィーの遺伝子制御や、がん免疫療法、ゲノム編集など、めざましい医学の進歩と未来について見聞し、遺伝子やゲノムなどの知識が医療研究の積み重ねによって実用に至ることを学ぶプログラムである。

③ 「命の尊さ講話」(講師：医師)

生徒の自己肯定感を高めるとともに、様々な違いを持つ自他の個性を認め合い、互いの命を尊重する態度を醸成する目的で、HIV感染やLGBT、薬物依存など様々な角度から命の尊さについて学ぶプログラムである。

④ 「食ること・生きることを考える」(講師：調理専門学校長)

和食の価値を通して、その魅力、食の持つ可能性の高さと責任の重さについて理解を深めるプログラムである。



【医師による講演会】

4 まとめ

生徒が新しい時代を生き抜く力を付ける健康教育。そのための活動を保健教育だけでなく、あらゆる教育活動を通して教職員が一丸となり実践できている。これらの取組は、未来ある生徒の心に火をつける健康教育の実践である。取組後の感想から例えば、がん教育では「この勉強をきっかけに自分から情報収集したい」「がんになったら終わりと思っていたが、本当は違うということがわかった」、グローバルリーダー養成事業では「自立は依存先を増やすことであり、多くの仲間を作ることが大切」「食と健康そして環境問題の大切さに関心を持った」「地域医療でのチーム医療について理解が深まった」など、今後につながる意見が出された。こうした生徒の声は、今後も取組を継続・発展させる活力となっている。

最後に課題として、健康に関する問題を自分のこととして捉えにくい世代に対して、健康に関する課題を意識させ、健康を維持向上させる習慣を定着させる方法について研究を重ねていきたい。

令和2年度 全国健康づくり推進学校表彰校一覧

最優秀校 6校

小学校	岩手県	二戸市立福岡小学校	中学校 高等学校 特別支援学校	群馬県	高崎市立倉淵中学校
	岐阜県	岐阜市立三輪南小学校		鳥取県	鳥取県立鳥取商業高等学校
	岐阜県	山県市立桜尾小学校		愛知県	愛知県立三好特別支援学校

優秀校 9校

小学校	山形県	三川町立押切小学校	中学校 特別支援学校	栃木県	下野市立南河内第二中学校
	埼玉県	川口市立青木中央小学校		熊本県	宇土市立網田中学校
	山口県	阿武町立阿武小学校		岡山県	岡山県立岡山西支援学校
	熊本県	御船町立七滝中央小学校			
	横浜市	横浜市立嶮山小学校			
	熊本市	熊本市立砂取小学校			

特別協賛者賞 優秀校より 2校

横浜市	横浜市立嶮山小学校	熊本県	宇土市立網田中学校
-----	-----------	-----	-----------

優良校 64校

小学校	1	青森県	むつ市立大畑小学校	小学校	33	宮崎県	高鍋町立高鍋西小学校	
	2	青森県	六ヶ所村立尾駸小学校		34	鹿児島県	志布志市立通山小学校	
	3	青森県	新郷村立戸来小学校		35	鹿児島県	屋久島町立栗生小学校	
	4	岩手県	二戸市立浄法寺小学校		36	京都市	京都市立川岡小学校	
	5	福島県	喜多方市立第一小学校		37	神戸市	神戸市立本山第三小学校	
	6	茨城県	潮来市立日の出小学校		38	千葉市	千葉市立扇田小学校	
	7	栃木県	日光市立清滝小学校		中学校	1	青森県	十和田市立切田中学校
	8	栃木県	益子町立益子西小学校			2	岩手県	二戸市立金田一中学校
	9	栃木県	下野市立古山小学校			3	秋田県	北秋田市立森吉中学校
	10	埼玉県	川口市立元郷小学校			4	山形県	長井市立長井南中学校
	11	埼玉県	蕨市立西小学校			5	茨城県	八千代町立東中学校
	12	千葉県	流山市立八木北小学校			6	埼玉県	川口市立戸塚西中学校
	13	東京都	豊島区立南池袋小学校			7	東京都	八王子市立館小中学校
	14	石川県	小松市立東陵小学校			8	福井県	福井市藁中学校
	15	石川県	金沢市立三谷小学校		9	長野県	須坂市立東中学校	
	16	山梨県	甲府市立朝日小学校		10	岐阜県	大垣市立赤坂中学校	
	17	山梨県	甲府市立中道南小学校		11	静岡県	磐田市立福田中学校	
	18	山梨県	山梨市立加納岩小学校		12	愛知県	みよし市立北中学校	
	19	長野県	須坂市立仁礼小学校		13	鳥根県	出雲市立湖陵中学校	
	20	岐阜県	恵那市立中野方小学校		14	岡山県	笠岡市立笠岡西中学校	
	21	静岡県	浜松市立平山小学校	15	広島県	安芸太田町立安芸太田中学校		
	22	愛知県	武豊町立武豊小学校	16	香川県	高松市立太田中学校		
	23	愛知県	刈谷市立富士松北小学校	17	鹿児島県	鹿児島市立桜丘中学校		
	24	愛知県	田原市立中山小学校	18	横浜市	横浜市立大道中学校		
	25	京都府	亀岡市立亀岡小学校	19	新潟市	新潟市立大江山中学校		
	26	兵庫県	姫路市立大津茂小学校	20	岡山市	岡山市立高島中学校		
	27	岡山県	笠岡市立今井小学校	高等学校 特別支援学校	1	青森県	青森県立大湊高等学校	
	28	香川県	綾川町立昭和小学校		2	岐阜県	岐阜県立岐阜北高等学校	
	29	福岡県	築上町立小原小学校		3	大阪府	大阪府立大冠高等学校	
	30	佐賀県	唐津市立伊岐佐小学校		1	岐阜県	岐阜県立岐阜盲学校	
	31	長崎県	壱岐市立渡良小学校		2	大阪府	大阪府立すながわ高等支援学校	
	32	宮崎県	門川町立草川小学校		3	長崎県	長崎県立佐世保特別支援学校 高等部上五島分教室	

虎ノ門(166)

昨年9月に大学の薬学部で教鞭をとった。これまで単発で、90分の薬学概論や実務実習前講義などは経験したことがあったが、薬局管理学という科目としての連続講義を担当したのは初めてだった。当初は学部4年生の前期に週1回の予定だったが、新型コロナウイルス感染症が拡大する中で私がリモート講義を嫌がったため、後期の集中講義として4日間で8コマをこなすという学生にとっても私にとってもハードなスケジュールに変更となった。さらには3密を防ぎソーシャルディスタンスを保つため、130人の学生が2つの教室に分かれ、講師の私が行ったり来たりする羽目になった。それでも学生たちは、久しぶりのリアル授業に生き生きとして講義を聞いていた。講義の中身は、これから期待される薬局での薬剤師の役割や服薬指導の実例が主体だったが、小中高での学校薬剤師の活動にも触れたので、講義後の学生からのレポートには「薬剤師の意外な活動に興味をもった」と

いう感想が多かった。そういえば、薬学6年制が成立し平成22年から病院と薬局に長期実務実習として11週間の実習が始まった際、薬局で受け入れた実習生が最も生き生きとしていたのは学校薬剤師の業務を体験した時だったのを思い出す。学校薬剤師業務を経験した実習生は必ず口をそろえて「将来学校薬剤師になります」と言っていた。それを聞いて答える私の言葉は「まず薬剤師になりなさい。次に社会人になりなさい。それが出来たら学校薬剤師になりなさい」だった。日本薬剤師会では、学校薬剤師は教育にふさわしい人間性を持ち、教育を正しく理解し、職務に必要な知識の研鑽を行うことが必要であるとしている。そこまでたどり着いたら、堂々と学校薬剤師に手を挙げてもらいたい。教える側の私たちは、児童生徒らの現在と将来を守る学校薬剤師の活動が薬学生の目に生き生きと光って見えるとき、忘れかけていた自分の仕事の誇りに改めて気付かされ、少しうれしくなる。(会報『学校保健』編集委員 富永孝治)

保健UCHIDAS
【特集】感染症対策!
保健室でお使いになる商品、お役立ち商品を集めて別冊化しています!

240ページ
約2,700
アイテム掲載!

保健室 **はもちろん!**
養護の先生が
よくお使いになる商品を
掲載しています!

洗面所 トイレ用品 清掃用品
キッチン用品 事務用品 など

ウチダスのしくみについて

- 学校様よりご注文(FAX・WEB)でいただいたご注文は、当社倉庫より配送されます。
- ご注文商品の代金は最寄りの担当販売店へお支払いただきます。

ウチダスは「地域有力販売店」と「内田洋行」との共同事業です。

お問い合わせはこちら
株式会社内田洋行 / 教育機器事業部 ウチダス事業グループ
ウチダスお問い合わせセンター TEL 0120-757-969
受付時間 午前9時～午後5時(土・日・祝日を除く)

www.uchidas.net

送料 無料 インターネットショップ/FAX
PM 5:00 までのご注文が翌日お届け
※北海道、九州、離島、(本州・四国の一部)は翌々日以降にお届け

学校保健関係者の皆様へ

学校保健関係者専用情報サイト

学校保健関係者専用の 情報サイトをご用意いたしました!

▶ <http://www.menicon.co.jp/gh/>

CHECK!!

学校保健の現場で役立つコンテンツをご用意!



安易なカラーコンタクトレンズの使用には注意!!

ルールをまとめたリーフレットができました。

目の健康やコンタクトレンズに関する正しい知識のご指導などにぜひお役立てください。
学校保健ポータルサイトからダウンロードできます。
<http://www.gakkohoken.jp/CLguide>



眼科へ行こう! コンタクトレンズの正しい使用と、眼科での定期検査を。
<https://acuvuevision.jp/goeyedoctor>

Johnson & Johnson VISION

©J&J KK 2019

学校保健の最新情報を満載

令和2年度版

学校保健の動向

特集 新型コロナウイルス感染症流行と学校保健 ほか2編

- 第1章 健康管理の動向 感染症、児童生徒の発育・発達、眼科等科目別ほか
- 第2章 学校環境衛生の動向 学校環境衛生、学校給食の衛生管理
- 第3章 健康教育の動向 保健教育、安全教育、食育、エイズ・性教育ほか
- 第4章 学校保健に関する組織・団体の最近の動向
- 第5章 資料編 学校保健関連年表

■養護教諭、大学関係者必携 ■養護教諭養成課程の学生の採用試験対策としても最適

一般書店等でも購入できます!



発行/日本学校保健会

2,800円(十税)



第78回 全国小学生歯みがき大会

歯と自分をみがこう

全国の小学生と一緒に学ぶ歯と口の健康

大会期間

2021年
6/1(火) ~ 10(木)

2021年
1/4(月) ~ 2/26(金)

10:00 ~ 24:00



新しい生活様式における歯みがき大会

40分 /



学校で



DVDで参加!



ご家庭で



WEB
配信で参加!

歯みがき学習 歯みがき実習

開催概要

参加対象

小学校5年生 ※4年生・6年生でも参加いただけます。
※いずれか1学年の参加となります。

定員

5,000校 / 290,000人(先着順)

参加費用

無料 ※使用する教材(児童用ドリル、歯ブラシ、デンタルフロスなど)も無償で提供します。

申込方法

ライオン
歯科衛生研究所
ホームページへ!



ボタンをクリック!

主催

(一社)日本学校歯科会 / (一財)東京都学校保健会 / ライオン株式会社 / (公財)ライオン歯科衛生研究所

後援

文部科学省 / 東京都教育委員会 / (公財)日本学校保健会 / (公社)日本歯科医師会 / (公社)東京都歯科医師会 / (公社)東京都学校歯科会 / (公社)日本歯科衛生士会

第78回全国小学生歯みがき大会事務局

☎ 0120(253)641

✉ contact@hamigakitakai.net